

記者懇談会の記録

日 時	令和 7 年 9 月 24 日（水）15：30～16：10
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-5
記者数	6 人

1 ライフデザイン支援事業（赤ちゃん中学生のふれあい体験）について

（市長）

全国的な少子化の進行は、当然ではありますが、さまざまな要因が複雑に絡み合っていると言われおり、岩見沢市においても同様の傾向であると認識しているところです。その要因の 1 つとして、こどもと直接触れ合うといった一次情報を得る機会が減少する一方で、インターネットや SNS などの二次情報では、子育てなどに対するネガティブな情報があふれており、プラスのイメージをなかなか持てないといったことも挙げられています。

そこで、若い世代が赤ちゃんとのふれあい体験を通して、職業生活だけではなく、家庭生活も含めたライフプランについて考えたり、こどもに興味を持ったり、妊娠・出産について自分事として捉えたりするきっかけづくりを行うライフデザイン支援事業を本年度から実施することとしました。

本年度のライフデザイン支援事業は、くりさわ学舎の 8 年生と 9 年生を対象に、10 月 23 日木曜日に実施する予定です。事業の内容は、中学校の授業の 2 コマ、3、4 時間目を利用して、1 コマ目の 3 時間目には助産師による講話を、2 コマ目の 4 時間目にはふれあい体験として、市内在住の 1 歳頃までのお子さんのいるご家庭に中学校まで来てもらい、実際に触れ合ったり、抱っこをしたり、保護者の方に育児について質問したりする時間を設ける予定です。

新たな取り組みを開始するライフデザイン支援事業ですが、各ライフステージのうち、進学や職業生活などの将来について考え始める年代である中学生を対象として、北海道大学 COI-NEXT との連携のほか、市が産後ケア事業を委託する株式会社 GIFT にもご協力をいただき、実施することとしています。

< 質疑応答 >

（北海道新聞）

同種の赤ちゃん中学生さんの触れ合い事業はいろいろな自治体でやっていらっしゃると思うのですが、岩見沢市ならではの特色はどのようなところとお考えでしょうか。

（市長）

道内の都市では札幌市や江別市などで乳幼児との触れ合い、あるいは子育てに関するさまざまな体験の機会を提供するという同種の事業を行っているかと把握しています。

そこで、岩見沢市の特色ですが、COI-NEXT と連携をして事業実施できることと、それから COI-

NEXT ではこれまで教育大学で行っている事業に参画をして、いわゆるプレコンセプションケアの啓発に向けた事業も行っているところですので、そういった点、北大との連携を含めて実施をするというところは岩見沢市の特徴かなと思っています。

(北海道新聞)

今回ママコロ広場さんがご協力されるということですが、そういう子育て支援の事業とも、このライフデザインの事業とうまく絡めるというか、連動させるというイメージなのでしょうか。

(市長)

そういうイメージだと思います。子育てというのは家庭だけのことではないので、特に若い世代の方にはまずはやはりライフデザインとして、自分事として考えるきっかけになってほしいというのと、それから育児に対して多様なサポートが受けられるような環境の醸成といいますか、そのようなものも必要だと考えています。

(プレス空知)

過去にも、出産、子育て、赤ちゃんはどういうふうに生まれてくるのかといった出前授業、出前講座を中学校で確か取材した記憶があるのですが、そういったこととはまた別のステージで今回はイメージしているということですね。

(市長)

要は、ライフデザインという観点を取り込んで、自分の人生の中で自分らしい判断ができるような、その発端として、まず中学生から事業を実施していきましょと。そこに市内で子育てをしている保護者の方とお子さんにも参加をしていただいて、そういうふれあい体験を実際に経験してもらおうと。なおかつその保護者の方にもいろいろお話をお聞きすることもあるでしょうし、そういったことをできるということだと思います。

(プレス空知)

市として COI と連携して、そういう新しいステージで行っていくと。

(市長)

COI-NEXT は人生の中で自分らしい選択ができる、そこがライフデザインという考え方なので、その一環としてということになるかと思います。

(プレス空知)

岩見沢市が新しく事業として展開しますということでよろしいですね。COI の取り組みとしてやるものを市が受けます、ではなく。

(市長)

岩見沢市が COI-NEXT と連携をして実施をします。

(北海道新聞)

今回が第 1 弾だとして、その後の流れ、今後どう事業展開をご予定されているのか伺ってよろしいですか。

(市長)

今年度、中学校と協議をして、そこで希望のあったくりさわ学舎で実施をしますが、来年度以降はその中学校での実施を増やしていく。実際に実施希望の有無は確認しているのですが、本年度は都合上なかなか調整がつかなかったところもありますので、先ほど申し上げた通り、令和 7 年度はくりさわ学舎 1 校になりますが、次年度に向けては、各学校と事前に、連携を密にしながら、事業実施に向けた準備、調整を図っていきたいと考えています。

(北海道新聞)

内容も基本的にはこのふれあい体験がメインになりそうですか。それともメニューが増えてくるのでしょうか。

(市長)

助産師さんから専門家としてのいろいろなお話が聞けるということと、実際に市内で子育てをしている保護者の方とお子さんにも参加いたくふれあい体験がメインです。参加いただく保護者の方とお子さんについては、であえーる 3 階にあります常設型の子育て親子ひろば ひなたっ子で参加について呼びかけたところ、12 組が参加予定と聞いていますが、12 組皆さん来るのかな。

(こども家庭センター統括支援員)

今、この資料を作成したときから増えていて、16 組の申し込みをいただいています。

(市長)

数字を聞いて少し驚きましたが、16 組の方が参加予定ということです。

2 その他記者から質問

<質疑応答>

(朝日新聞)

お米のことでお伺いしたいのですが、先日市長が稲刈りの現場の視察に行かれたと思います。その際に、出来栄えのことなどの意見交換もあったかと思いますが、今、お米はさまざまな意味でトピックの多い現場です。生産現場の方と意見交換などをされた際に、このような声を聞いた、ですとか、昨今の情勢を踏まえて、岩見沢は日本の中でも有数の稲作のエリアというところで、感じていらっしゃるなどお聞きしたいです。

(市長)

お米の価格の問題が全国的に話題になっていますが、岩見沢市は、生産自体はしっかり継続して、次の年の営農につながるような価格形成が今できているのだろうと思っています。

農家の方にもお聞きすると、率直な意見として農家の方が次の年に向けてお米をしっかり作っていくという意欲がとても強いと感じています。それと、価格については生産農家の方にとっても、また、消費者の方にとっても納得のできる価格を、ということで、農家の方は価格が高ければいいとは全然思っていないんですね。消費者の方にも買いやすく、また生産者にとっても次の営農に向けて投資ができるような、そういう環境でしっかり米作りを進めていきたいというふ

うにおっしゃる方がほとんどです。

ただ実際にその価格となると、いろいろなお米の流通経路がありますが、例えば、いわみざわ農協、買い取りはホクレンなので、ホクレンは、今年できたお米の概算金がななつぼしで2万9,000円、ゆめぴりかで3万円です。今年農家から集荷したお米は概算金で一度支払ったあとに、翌年の販売の状況を含めて精算金という形で上乘せされます。ですから、今年でいくと、去年の分が4,000円で追加払いされたと聞いていますので、それに今年の概算金がゆめぴりかで3万円、ななつぼし2万9,000円となると、去年から見るとかなり所得は伸びることが想定され、今年よりも来年の方が農業所得は確実に上がってくると思います。今、集荷業者の方がいろいろと市内にもいらっしゃっているという状況もお聞きしました。ただ、集荷業者の中には長期的に安定的に継続的に品物を取り扱えるところもあれば、ないところも結構ありますので、そういった意味では農家の方もしっかり見極めながらお付き合いしていると思います。

（朝日新聞）

農家の方にとっては増産の方針などが示されているものの、今のような上昇が突然崩れるのではないかという懸念とか、生産設備投資にどこまで投じていいのかというところの不安を抱えていらっしゃるのかなというイメージがあるのですが。

（市長）

あまりそういった不安の声は聞こえなかったですね。

（朝日新聞）

先ほど、集荷業者がいらっしゃるというのは、新規に農家さんに、ということでしょうか。

（市長）

去年から特に生産したお米の買い付けにさまざまな集荷業者さんがいらっしゃっているというのはいろいろな方からお聞きするところですし、農協さんで示している概算金よりもかなり高い値段でお米を集めている方がいると。ただ、その反面、これまでもそういう業者さんはいらっしゃいましたが、高いからといってそことだけ取引していると、非常に経営が不安定であったり、倒産したり、いろいろなケースが過去にあったとおっしゃる方もいますので、いかに安定的に価格が形成されていくのかがやはり重要なのかなと思いました。

（朝日新聞）

この令和の米騒動と呼ばれるような事象に対してどのような所感を抱かれているのかということと、何かお米関係で国に要望していることなどがあれば改めてお伺いできればと思います。

（市長）

お米関係についてはいろいろな制度が絡み合っているのも事実ですが、昨年の米不足というのは、やはり生産量が足りていないのではないかという声は農家の方からも聞かれました。

一度高い価格で買われたお米は、安くなるというのはなかなか想像しづらいところもあるので、価格自体は今後どう推移していくのか注視しています。ただ、岩見沢の農家の方は結構直販しているんですよね。自分の産直物品の直販所とか、先日、毛陽の方に行ってきましたが、市中価格

よりはずいぶん安い価格で美味しいお米が手に入る環境にはあると思います。

情熱フェスティバルが 9 月 13、14 日にありまして、そこには農協さんも出店をして、そのときは岩見沢で取れた新米を特別価格で、ななつぼしを確か 5 キロで 3 千円でしたか、用意をして、お祭りが始まる前からもう列ができていましたし。自分たちで精米工場を稼働することも可能なのでそういったこともできたのかもしれませんが。

(朝日新聞)

自民党総裁選がされている状態で、さまざまな候補の方がさまざまな議論をされているところではありますが、地方自治体の首長として今、地方に求められる政策や、新総裁の眼差しといったところでどのようなものが重要と考えるのかをお伺いできますでしょうか。

(市長)

地方自治体としては、地方創生という基本的な考え方はやはり十分配慮していただきたい、当然のことだと思いますけれども、そういう思いはいたします。ただ、政策の中で、いろいろな制度的にどういうものを考えるのかというのは、これはまだ明らかになっているわけではないので、どなたもやはり共通しているのではないのでしょうか。地方創生、地方を重要視していくということについては。と思っています。

(北海道新聞)

今ちょうど総裁選の話が出ましたので、自民党 10 区の支部長が渡辺孝一さんに決まりまして、先だって、意気込みなどお聞きしましたが、松野市長としては今後どのような関係性を築いていかれるのかなど、現段階でお考えのことがあればお聞かせいただけますか。

(市長)

10 区の支部長に正式に決定したということですが、それぞれの立場でしっかり責任を果たしながらやっていくということがベースになるのだろうと思っています。

(北海道新聞)

先日、新病院の工事契約を締結したということでお知らせをいただきました。今後のスケジュールも改めて見させていただいたのですが、今後、式典的なもの、例えば起工式だとか、あと開院が何月ぐらい、10 月から 12 月とは思いますが、開院の方はどういうイメージで今進められているのか、改めてお聞かせください。

(市長)

いよいよ、現地で工事が始まってくるのはおそらく 11 月くらいだと思いますが、10 月 29 日に起工式を行うということで大成建設からご連絡をいただいているところです。10 月 29 日の 10 時から現地で、ということは私もお聞きしてまして、それが公の起工式になると思います。その内容の詳細についてはまだ聞いていませんが、担当の方でいろいろ相談しているかと思います。

それから、スケジュールに則ってきちんとやっていこうと思いますが、ただいろいろな状況がやはりこれから発生してくるということも想定されます。統合は来年の4月にいたしますので、今それに向けてのいろいろな作業を並行して行っているというところになろうかと思います。

(北海道新聞)

その統合の方のスケジュールは4月からということでそちらは変わりなく、予定通り進んでいるということでよろしいですか。

(市長)

はい。それは予定通り進んでいます。

(北海道新聞)

最初は10月くらいの開院を目指すというようなニュアンスでしたが、やはり少しずれることもあり得るということでしょうか。

(市長)

工事の状況によってみなければまだ分かりませんが、ただ今現在のところ、目指すのは10月もしくは10月から11月というところです。

(プレス空知)

今の質問に関してですが、正式に本体工事の契約が締結できたということに対する市長のご感想といたしますか、受け止めといたしますか、いろいろと紆余曲折がありながらも一つ区切りがついたというところで、率直なお気持ちを一言聞かせていただきたいと思います。

(市長)

病院の建設と完成、その後に向けてやはり重要なマイルストーンが契約でしたので、それが締結できていよいよその本体工事に入ってくるということについては、本当に節目だなと感じています。これからは順調に工事が進んでいくことを願っています。工事自体は安全にやっていくべきものでしょうし、そうあって欲しいと思います。工事は建設業者さんだけではなくいろいろな、設備関係や電気関係の業者さんもありますし、それも含めて全体の管理業務も発生します。併せてコンストラクションマネジメントも引き続きやってまいりますので、それぞれがお互いに能力を出し合って連携をして、完成に向けて協力して実施をしていただきたいと思います。

(プレス空知)

本当にいろいろなことがあったので、何かほっとしたといたしますか、ようやく一息つけたというような心境があったのかと思ったのですが、そういうのはあまりなかったですか。

(市長)

全部ひっくるめてのマイルストーンだと思うのです。ほっとしたと言って、もうこれで肩の荷が下りたということではもちろんないので、改めてこれまでいろいろなこともありましたし、職員とも関係者の皆さんとも知恵を絞りながら、それを乗り越える努力をしてまいりましたが、逆にこの契約をしたことによって、これからいよいよスタートだなという認識の方が強いですね。

(北海道新聞)

線状降水帯の関係で、防水治水対策についてお尋ねします。空知でも線状降水帯ができるのではないかと、しばらく雨の降り方も極端な日があるなどしていましたが、今回の大雨で何か被害がなかったかと、激甚化している状況を踏まえて、新しく何か対策をとられるとか、あとは市民の方への呼びかけとか、何かご予定されてることがあればお聞かせください。

(市長)

今回の雨で、岩見沢はそれほど大きな被害は、雨の被害はなかったのですが、風による倒木の被害がかなり発生したということはありません。

雨も、警報が発令される可能性については札幌管区气象台の方ともいろいろ連携して情報を取っていたのですが、結果としては警報が発令されることなく過ぎました。ただ、総雨量が 80 ミリぐらい降ったと思いますが、そうすると岩見沢の中小河川は割と脆弱なところが多いので、特に幌向川、利根別川も水防団待機水位近くまでは行ったかと思います。最近の災害を見ると、線状降水帯が発生しなくても総雨量が 1 カ月分に相当するような雨が降ったとか、特に線状降水帯が発生するとさらにそのリスクが高まるとか、集中化して局地化しているのと、短時間化が進んでいます。岩見沢でも何年か前に 1 時間雨量 95 ミリの予報が出たときがあったのですが、あのときは 1 時間に 95 ミリと言いながら、30 分で 90 ミリ降りました。ですから、同じ 1 時間で降る量が 30 分になると、倍以上の破壊力が出てきますので、これから雨の降り方によっては内水氾濫の危険性が高くなって来るのだらうと思います。その点、岩見沢は農業関係を含めて、排水機場が複数ありますので、ある程度の水は強制的に川に排出できます。南利根別川の排水機場はポンプを入れ替えるだとか、施設設備を増強しました。なぜそこを重点的にやったかという、13 年前の 9 月に市長になって 2 日目か 3 日だったのですが、南利根別川が渭水したという状況がありまして、ちょうど住宅地と農業地域の境目にある機場なので、そこを増強することによって、農地被害とそれら美園地区を中心とした内水被害の軽減といいますか、そのためにかなり大きく増強したということもあります。

降り方が急激に、短時間になってくると、例えば避難所の設置が必要なときにはできるだけ早く設置をするということと、大雨のときに避難所と言われてもなかなか出られませんので、場所によってはまず垂直避難が有効ですというようなこと、そういったことも含めて防災の方でもいろいろ検討してもらっています。ただ、今までは局地化、集中化、激甚化だけでしたが、自分の認識としてはそこに時間軸が関わってきていると。ですから 1 時間単位よりは 30 分単位で物事を見ていかなくてはならないという気もしています。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報係)